

○オオトゲシラホシカメムシ

【生態と特徴】

成虫は越冬世代と第1世代の年2回出現し、水田周辺の雑草で成虫越冬する。越冬世代は6月上旬以降イネに集まり、6月中旬から7月中旬にかけて産卵し、その後約1か月で成虫となる。

口吻が丈夫で籾を貫通できるため、玄米を無差別に加害する。本種は、2000（平成12）年以前は本県において主要な斑点米カメムシ類とされてきたが、近年はすくい取り頭数が少なく、他の主要種と比べて、本種による斑点米被害の割合は低いと推測される。

成虫は体長6mm程度で、前胸部の両端がとげ状に突出しており、左右の小楯板基部に1対の白紋がある（写真）。近縁のトゲシラホシカメムシと酷似するが、腹部の濃淡褐色の範囲や前胸部の点刻などで区別が可能である。

飛翔性が低く、歩いて水田内に侵入するため、被害が畦畔際に集中しやすい。

【防除対策】

防除は、水田周辺及び水田内のイネ科雑草の管理と薬剤防除が主体となる。詳細は「斑点米カメムシ類の防除対策について」を参照すること。



写真 オオトゲシラホシカメムシ成虫